

令和元年 6 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5 議席 番号	1 2	氏名	深 澤 竜 介 議員	1 / 2
発 言 項 目			要 旨		答 弁 者
1			<p>市民の命を守るために、救急医療体制を安心できるものにする</p> <p>市民の命を守るためには、救急医療体制を安心できるものにすることは極めて重要である。その視点から質問する。</p> <p>(1) 1次救急（救急医療センターのソフト面・ハード面）について。</p> <p>① 派遣医師の見通しはどうか。</p> <p>② 入口の段差による転倒等があると聞くが、実態はどうか。</p> <p>③ 段差の改修工事を提案するがいかがか。</p> <p>(2) 2次救急、3次救急について。</p> <p>① ここ数年間の救急車到着までの平均時間と病院までの搬送時間はどの程度かかっていたか。搬送先決定まで、30分以上を要した件数及び搬送先を決めるまで、連絡した相手先の病院の件数の推移はどうなっているのか。</p> <p>② 時間が比較的にかかっているのは、どの診療科か。</p> <p>③ 曜日や時間帯ごとのデータを分析すると、時間がかかっているのは、どういう曜日及び時間帯か。</p> <p>④ 搬送先の病院の分析（富士宮市立病院・富士市立中央病院その他）により、富士医療圏外への搬送数の推移はどうなっているのか。</p> <p>⑤ 救急車到着後、搬送されるまで時間がかかる原因は、何だと考えられるか。</p> <p>⑥ 救急救命病院（三次救急病院）は県内に11あるが、富士医療圏にはあるのか。なければその理由は何か。</p> <p>(3) 今後への提案。</p> <p>① 平成29年6月27日の富士地域医療構想調整会議において、富士医療圏での救急医療体制について、「富士医療圏での救急医療について議論の場を設ける」との発言が、富士健康福祉センター長からあったが、その後話し合いは進んだのか。</p> <p>② 現状において、富士医療圏の救命救急医療体制を充実するため、富士市との協議を行うべきと考えるがいかがか。</p> <p>③ 富士市立中央病院は、建てかえに向けて病院内や役所内の協議を行っており、基本的な方向性は本年度中にも固まるものと予測される。将来へ向けて、富士医療圏のあり方を考える上で極めて重要な部分であり、地域医療の役割分担について、富士市との協議を行うべきと考えるがいかがか。</p>		市 長 副 市 長 病 院 長 関 係 部 長
<p>2 富士宮市SDGs元年にあたり、地域循環共生圏として、星山浄化センターでの発電の提案</p>					<p>地域の中で、環境と経済が循環するまちが21世紀に生き残ることができる。その視点から、地域循環共生圏の考え方は、富士山の麓の富士宮市としては、大いに推進すべきものとする。その中で特に、マイナス（下水汚泥）とマイナス（生ごみ等）を掛け合わせることで発電は、まさに令和の時代の政策といえる。その視点から質問する。</p> <p>(1) 地域循環共生圏について。</p> <p>① 環境省に採択された要因は何か。</p>

発言 順序	5	議席 番号	12	氏名	深澤竜介 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
		② 地域循環共生圏に採択されたことによるメリットは何か。 ③ 採択されたことにより今後の政策で期待できるものは何か。 (2) 地域の課題。 ① 星山浄化センターの汚泥処理費及び電気代はいくらか。 ② ごみの中における生ごみの割合はどの程度と考えられるか。 ③ ごみの中における刈り草の割合はどの程度と考えられるか。 (3) 地域の課題解決に向けて今後への提案。 ① 地域の課題解決に向けて、プラットホームを作り、検討する土台を作ることを提案するがいかがか。 ② 星山浄化センターにおいて、消化槽を設置し、下水汚泥に加え、生ごみ・刈り草も加えて発電することを提案するがいかがか。 ③ 市が民間に土地を貸し、上記のようなことを行う場合の問題点は何か。				